

作家は語る ー原発被害の実相ー

2011・3・11の原発事故から6年が経ちましたが、事故原因はいまだ明らかにされず、収束の目途もたたない中、国民多数の不安の声を無視し、次々再稼働を進めるという安倍政権の暴走政治がまかり通っています。

今回は、作家であり日本科学者会議の会員でもある風見梢太郎さんに、取材をとおして体験された原発被害の実相をお話していただきます。

風見さんは、NTTの電気通信研究所で研究に従事しながら小説を書いてこられました。特に福島第一原発の過酷事故が起こってからは、「自分こそが原発に関わる小説を書く責任を負っていると感じ」「事の本質をわかりやすく伝えなければならない」と、原発にかかわる多くの小説を発表されました。2014年には新聞「赤旗」に「再びの朝」という小説を連載されました。「風見梢太郎 原発小説集」もあります。



みなさん、風見さんのお話を聞き、ともに学び、考えていきましょう。奮ってご参加ください。

講師：風見梢太郎さん（日本科学者会議 武蔵野通研分会）

日時：2017年6月17日(土) 14:00~17:00
場所：電気通信大学 東1号館 810号室（下の地図をご覧ください）
参加費：200円（資料代）

